

5. - 8) 検定結果 57×831 (RC×軍鶏赤笹) 雄系種鶏 (PS♂) 27年度

(1) 体重 (表3・4、図1参照)

体重は、12・18週齢を全羽数とし、20週齢までのその他の週齢を20%抽出(20羽)、22週齢から40週齢までの週齢を10%抽出(10羽)として測定した。

「57×831♂」では、15日齢からの制限給餌により、飼料給餌量に応じてなだらかに上昇し、12週齢で1.6kg、18週齢で2.2kg、検定終了時の22週齢で2.7kgとなった。

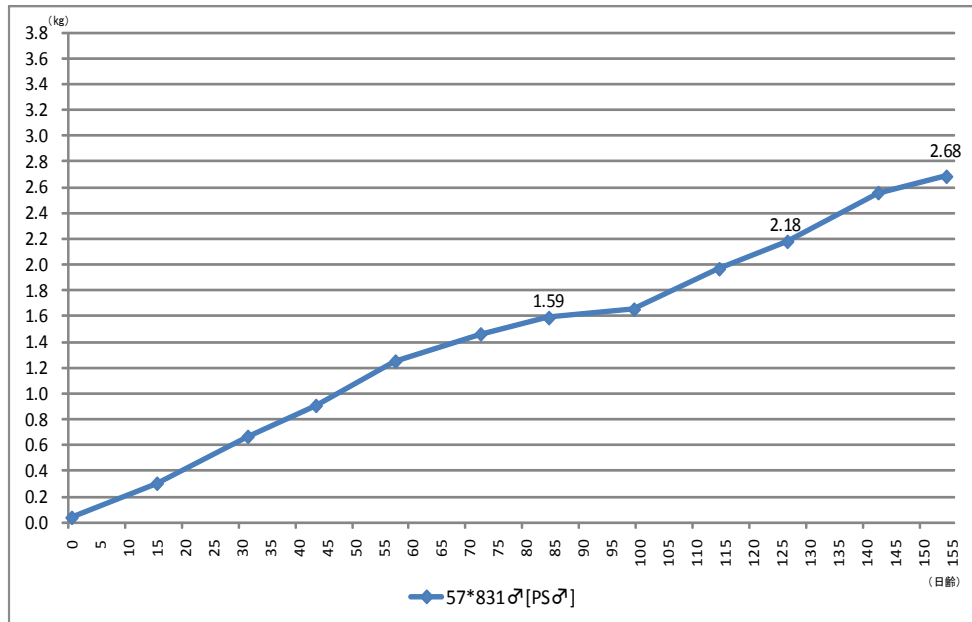
(表3) <57×831♂> 「PS♂」体重の推移

	0週齢	2週齢	4週齢	6週齢	8週齢	10週齢	12週齢	14週齢	16週齢	18週齢	20週齢	22週齢
	0日	15日	31日	43日	57日	72日	84日	99日	114日	126日	142日	154日
平均体重(g)	39	304	667	908	1,252	1,462	1,589	1,654	1,968	2,180	2,558	2,685
最大(g)	45	366	760	1,015	1,460	1,726	2,175	1,970	2,645	3,115	3,165	3,340
最小(g)	35	249	580	825	1,030	1,225	1,140	1,410	1,585	1,630	2,150	2,195
標準偏差(g)	3.1	27.9	50.6	53.1	102.7	127.0	173.3	189.2	261.8	317.6	325.9	387.7
変動係数	7.83	9.19	7.58	5.85	8.20	8.69	10.91	11.43	13.31	14.57	12.74	14.44
測定羽数(羽)	20	20	20	20	20	20	97	20	20	87	10	10

※ 上記の表3における12・18週齢の全数測定において、発育不良等により極端に低い体重のものは、異常値として集計から除外した。

(単位: 週、日、kg)

週齢	PS日齢	♂
0	0	0.04
2	15	0.30
4	31	0.67
6	43	0.91
8	57	1.25
10	72	1.46
12	84	1.59
14	99	1.65
16	114	1.97
18	126	2.18
20	142	2.56
22	154	2.68



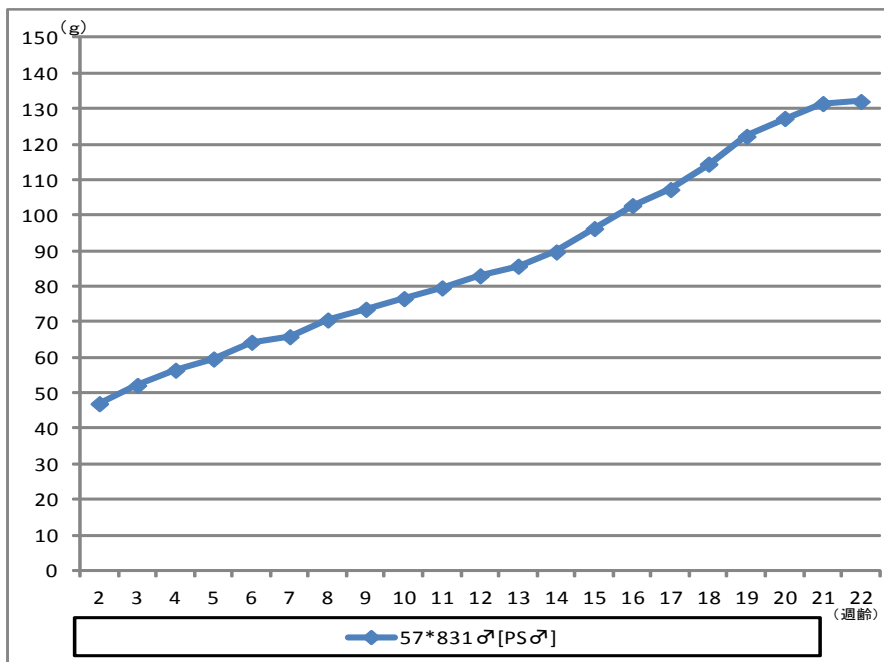
(表4・図1) PSの平均体重の推移

(2) 週齢毎飼料給餌量 (表5・図2参照)

「57×831♂」は15日齢から制限給餌を実施し、産卵開始までの期間は種鶏の育成に必要なME (代謝エネルギー) 量に応じた量を給餌した。

(単位: g)

57*831♂	
0W	飽食
1W	47
2W	52
3W	56
4W	60
5W	64
6W	66
7W	71
8W	74
9W	77
10W	80
11W	83
12W	86
13W	90
14W	96
15W	103
16W	107
17W	114
18W	122
19W	127
20W	131
21W	132
22W	132



(表5・図2) P Sの週齢毎飼料給餌量の推移

※ 1日1羽当たり給餌量を週齢毎に平均化して算出。

(3) 羽色・外貌特徴

ア 0週齢時 (羽色のみ(20%抽出)、図3参照)

羽色は、その組合せの中で多く占めている羽色タイプを順に、羽数をカウントした。

「57×831♂」は、羽色が3タイプあり、羽色タイプⅠ(褐色)が80%(20羽中16羽)、羽色タイプⅡ(黒褐色斑)が15%(20羽中3羽)、羽色タイプⅢ(淡褐色)が5%(20羽中1羽)を占めた。



(図3) <57×831♂>「PS♂」の羽色

イ 18 週齢時（全数：羽色・外貌特徴、図 4 参照）

「57×831♂」は、羽色タイプ I（濃赤色）が 100%（87 羽中 87 羽）であった。外貌の特徴は、何れも体型が肉用種型（地鶏型）、豆冠、耳朶色は赤色（一部白色）、脚色は黄色（一部分に褐色が混在）であった。

<57×831♂> 「P S ♂」



(図 4 - 1) <57×831♂> (P S ♂) の羽色・外貌の特徴

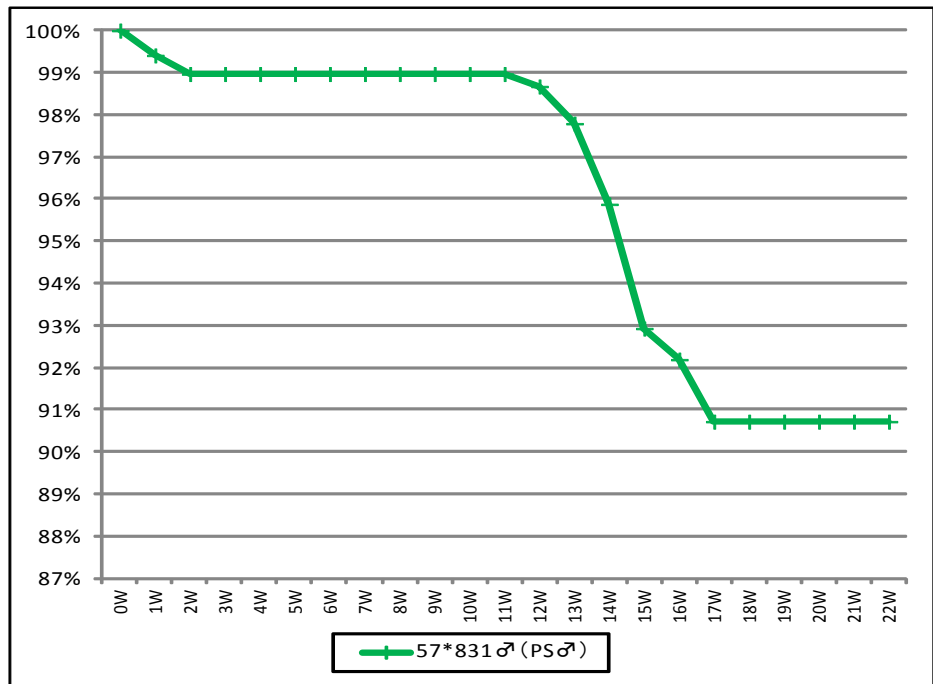


(図 4 - 2) <57×831♂> (P S ♂) の飼養状況

(4) 育成率 (表 6・図 5 参照)

「57*831♂」では、特に目立って育成率が低く、11 週齢までは概ね順調であったものの、その後、発育不良による淘汰が目立ち、検定終了時の 22 週齢 (126 日齢) の育成率は 91%程度となった。

	57*831♂(PS)
0W	100.0%
1W	99.4%
2W	99.0%
3W	99.0%
4W	99.0%
5W	99.0%
6W	99.0%
7W	99.0%
8W	99.0%
9W	99.0%
10W	99.0%
11W	99.0%
12W	98.7%
13W	97.8%
14W	95.9%
15W	92.9%
16W	92.2%
17W	90.7%
18W	90.7%
19W	90.7%
20W	90.7%
21W	90.7%
22W	90.7%



※ 日齢毎の育成率を各週で平均化した育成率であることに留意。

※ 0～154日齢(え付～154日齢)の育成率。22Wは154日齢時(1日間)の育成率。

※ 傷病によらない淘汰鶏(誤鑑別・事故死・検査淘汰)は、育成率算出より除外(え付羽数から除外)。

(表 6・図 5) P S の育成率の推移

(5) へい死・淘汰要因 (表 21～22 参照)

「57×831♂」は、へい死・淘汰率が高く、その要因は、特に全身病(発育不良)に係るもの(8羽中7羽)が多く発生し、その他特に目立った症状はなく、検定終了時の 154 日齢までのへい死・淘汰率は 8.2%となった。

(表 7) P S のへい死・淘汰率 (日齢/羽数)

症状	57×831♂(PS♂)	
発育不良	7.2%	(89～118/7羽)
弱雛	1.0%	(10/1羽)
計	8.2%	(8羽)

※ PS♂は22W(154日齢:「57*831♂」はH27/9/7)までのデータとした。

※ へい死・淘汰率は、え付羽数から事故死・検査淘汰・誤鑑別を除いたものを補正え付羽数とし、その羽数に対する率。